

科目名	プログラミング演習ⅡB						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	川野啓祐・手嶋隆之・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	Java言語の基礎知識を修得し、実際の開発時に使用される実践的な知識を学び活用できるようになる。SDK8以降にJavaに追加された開発技術や技法を理解し、ラムダ式・ストリームなどモダン記法に基づいたソースコードを読解・記述できることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				Java言語の技法(ラムダ式や関数オブジェクト、ストリームなど)とその考え方を説明できる。	
		◎				Java言語の技法(ラムダ式や関数オブジェクト、ストリームなど)を利用したソースコードが解読できる。	
	○	◎				PHPなど他言語に通じるモダンなオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解し応用することができる	
テキスト・教材 参考図書	Java実践編 アプリケーション作りの基本(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	第1章・第2章・第5章の復習				プログラミング環境の確認	
	4-6	第5章 コレクション 5-2					
	7-9	第5章 コレクション 5-3					
	10-12	第6章 ラムダ式					
	13-15	第7章 入出力 7-1					
	16-18	第7章 入出力 7-2~7-3まで					
	19-21	第8章 JavaFXによるGUIアプリケーション					
	22-24	第9章 グラフィックスとマウスイベント 9-1~9-2					
	25-27	第9章 グラフィックスとマウスイベント 9-2~9-3、第10章 ネットワーク 10-1					
	28-30	第10章 ネットワーク10-2					
	31-33	第11章 一歩進んだJavaプログラミング				確認テストの内容を復習しておくこと	
	34-36	確認テスト、データベース接続、DML操作					
	37-39	DML操作、総合演習1				総合演習内容を事前に確認すること	
40-42	総合演習2						
43-45	総合演習3						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(筆記)を1回実施する。(2)課題演習を4回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	確認テスト	○	◎		○		20%
	課題演習	○	◎		○		20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	USBメモリを持参すること。						

科目名	Webプログラミング演習ⅡB						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	手嶋隆之・川野啓祐		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	前期に引き続き、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。より実践的でより効率的なプログラミング開発を行い、実践的な技術力の習得を目指す。課題として、本格的なWebアプリケーションを作成し、3年生の卒業研究に繋げていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる	
		◎				本格的なWEBアプリケーションを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-6	Chapter6 データベースの基本と操作(1)、(2)の復習				しっかり復習しておくこと	
	7-12	Chapter6 商品一覧を表示する・Chapter6 商品データを検索する					
	13-18	Chapter6 商品データを追加する・Chapter6 商品データを更新する					
	19-24	Chapter6 商品データを削除する・Chapter6 まとめ					
	25-30	確認テスト、Chapter7 商品や顧客などの情報を格納するデータベース				確認テストの勉強をしておくこと	
	31-36	Chapter7 サイトへのログイン・ログアウト処理					
	37-42	Chapter7 会員情報の登録					
	43-48	Chapter7 ショッピングカート、お気に入りに商品に登録する					
	49-54	確認テスト、総合演習1				確認テストの勉強をしておくこと	
	55-60	総合演習2					
	61-66	総合演習3					
	67-72	総合演習4					
	73-78	総合演習5					
79-84	総合演習6						
85-90	総合演習7				課題を提出すること		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を2回実施する。(3)演習課題を5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	◎				40%
	課題演習		◎	○	○		50%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。						

科目名	Webフロントエンド演習B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	志水徹		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	設計工程で活用できるモバイルユースに対応したWebアプリケーションのプロトタイプを、ツールを用いて作成する手法を学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		テキストの演習を、テキストを見ながら実施することができる。	
		◎				ツールを使ってモバイルアプリ用のプロトタイプを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	Adobe XD UIデザインとプロトタイプ制作の教科書 技術評論社 できるクリエイター Inkscape独習ナビ Windows & Mac対応 インプレス オリジナル教材、USBメモリ 4G以上						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プロトタイピングとUIデザイン、XDの基本、XDでオブジェクトをつくる					
	2	曲線やアイコンの作成、テキストや画像の扱い					
	3	リピートグリッドの利用				使い方を復習しておくこと	
	4	共通パーツの管理、グリッド設定と画像書き出し					
	5	プロトタイピング					
	6	プロトタイプの共有				使い方を復習しておくこと	
	7	共通パーツの作成					
	8	トップページの作成					
	9	フォームや表の作成					
	10	プロトタイピングとデータの整理				使い方を復習しておくこと	
	11 -	課題演習1				期限までに課題を完了させること	
	16 -	課題演習2				期限までに課題を完了させること	
	21 -	課題演習3				期限までに課題を完了させること	
26 -	課題演習4				期限までに課題を完了させること		
評価方法	(1)課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。						

科目名	システム開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	志水徹・川野啓祐・高橋政博		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	与えられた要件定義書から外部設計書(画面設計書とデータベース設計書等)を作成する技術習得を目指す。 本授業はグループでの実習を主とし、外部企業からの助言、評価を実施する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎				与えられたシステム要件を把握した上で、画面設計書を作成できる。	
		◎				与えられたシステム要件を把握した上で、データベース設計書を作成できる。	
		◎	○			作成した画面設計書を元に、プロトタイプを作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	オリエンテーション 前期の復習(公欠管理システム)					
	4-7	データモデリング演習					
	8-9	設計応用演習(要件定義)					
	10	設計応用演習(画面一覧、画面遷移図)					
	13	設計応用演習(画面レイアウト設計)					
	16	設計応用演習(E-R図)					
	19	設計応用演習(テーブル設計、CURD図)					
	22	設計中間レビュー					
	25	設計応用演習(設計書修正)					
	31	設計応用演習(プロトタイプ制作)					
	41	設計最終レビュー					
	44	設計書修正					
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)レビューを数回実施する。企業レビューへのやむおえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		30%
	レビュー		○	○	◎		30%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。 企業レビューは原則参加すること(公欠などやむおえない事情は除く)。						

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	手嶋隆之・高橋政博・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科2年、情報システム科アドバンス1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる	
	11	求職票受付面接練習① 入退室の所作					
	12	求職票受付面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	求職票受付面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	求職票受付面接練習振り返り					
15	企業説明会・入社試験時のマナー						
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)求職票受付面接に合格する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる。	
	○			○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	プレゼンテーション技法(株式会社ウイネット 刊)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か					
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識					
	3	企画立案・情報収集法					
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点					
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート提出		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワークⅡB						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	Ciscoルータの基本操作、Ciscoデバイスの管理機能、スタティックルーティング、VLAN間ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACL、各設定の確認方法、トラブルシューティングに必要な技術を講義と演習を通して学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACLに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACLに関する基本設定、動作確認ができる。	
	○	○				ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACLに関するトラブルシューティングができる。	
テキスト・教材 参考図書	徹底攻略 Cisco CCNA Routing & Switching ICND1編 教科書(インプレスジャパン)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	7-1 Ciscoルータの初期起動、7-2 ルータの基本設定、7-3 ルータの基本設定の確認					
	6-10	14-1 Ciscoデバイスの管理機能、14-2 Ciscoルータの管理、14-3 Cisco IOSイメージの管理、14-4 コンフィギュレーションファイルの管理					
	11-15	14-5 NTPによる時刻同期、14-6 Cisco IOSイメージのライセンス、14-7 パスワードリカバリ			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	16-20	8-1 ルーティング、8-2 スタティックルーティング					
	21-25	8-3 ダイナミックルーティング、8-4 経路集約					
	26-30	8-5 メトリックとアドミニストレーティブディスタンス、9-7 VLAN間ルーティング			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	31-35	15-1 IPv6の概要、15-2 IPv6アドレス					
	36-40	15-3 IPv6の主要プロトコル、15-4 IPv6アドレスの設定と検証					
	41-45	15-5 IPv6ルーティング			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	46-50	10-1 IPv4アクセスリストの概要、10-2 ワイルドカードマスク					
	51-55	10-3 番号付き標準ACL、10-4 名前付き標準ACL					
	56-60	10-5 ACLの検証、10-6 ACLのトラブルシューティング			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	61-65	11-1 DHCPによるインターネット接続、11-2 NATとPATの概要					
66-70	11-3 NATの設定、11-4 PATの設定						
71-75	11-5 NATとPATの検証、11-6 NATとPATのトラブルシューティング			演習課題のエビデンスを提出すること。			
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	サーバー構築・運用演習 I B						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	インターネットサーバーの基本となるSambaとMailの仕組みを理解し、Samba、Postfix、Dovecotの設定方法を習得する。仮想化技術であるVagrant、Dockerの仕組みを理解し、Docker環境におけるインターネットサーバーの設定方法を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Sambaの仕組みを理解し、Sambaの基本設定ができる。	
	○	○				Mailの仕組みを理解し、PostfixおよびDovecotの基本設定ができる。	
	○	○				Vagrantの仕組みを理解し、Vagrantの基本操作ができる。	
	○	○				Dockerの仕組みを理解し、Docker環境におけるインターネットサーバーの設定ができる。	
テキスト・教材 参考図書	CentOS徹底入門 第4版(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	Sambaサーバー: Sambaの仕組み、Sambaインストール、Samba基本設定					
	4-6	Sambaサーバー: smb.conf構文チェック、Sambaユーザー管理					
	7-9	Sambaサーバー: 共有の作成、ユーザーディレクトリ公開			Sambaサーバー演習のエビデンスを提出すること。		
	10-12	Mailサーバー: メールの仕組み、Dovecotインストール					
	13-15	Mailサーバー: Postfix基本設定、Dovecot基本設定					
	16-18	Mailサーバー: メーラーの設定、SMTPコマンド、POPコマンド			Mailサーバー演習のエビデンスを提出すること。		
	19-21	Vagrant: Vagrantの仕組み、box、vagrantfile					
	22-24	Vagrant: 設定、起動、接続、停止、削除、box作成					
	25-27	コンテナ技術: Dockerの仕組み、Dockerインストール、Dockerイメージ取得					
	28-30	コンテナ技術: 設定、起動、接続、停止、削除、Dockerイメージ作成					
	31-33	コンテナ技術: DNSサーバー			DNSサーバー演習のエビデンスを提出すること。		
	34-36	コンテナ技術: Webサーバー(Apache)			Webサーバー(Apache)演習のエビデンスを提出すること。		
	37-39	コンテナ技術: Webサーバー(Nginx)			Webサーバー(Nginx)演習のエビデンスを提出すること。		
40-42	コンテナ技術: Sambaサーバー			Sambaサーバー演習のエビデンスを提出すること。			
43-45	コンテナ技術: Mailサーバー			Mailサーバー演習のエビデンスを提出すること。			
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	システム開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	ネットワーク設計における流れ、設計項目、必要ドキュメントを実習を通して学習する。また運用監視業務を実践的な環境で体験することで、運用監視に関する基本用語を押さえ、ビジネスマナーを意識して顧客に適切に報告するスキルを身につける。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ネットワーク設計に関する基本用語を説明できる。	
	○	○				ネットワーク設計に関するドキュメントを作成できる。	
	○	○				ネットワーク運用監視に関する基本用語を説明できる。	
	○	○				ネットワーク運用監視に関する報告書を作成し、ビジネスマナーを意識して報告できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-6	ネットワーク設計シナリオ1(物理設計)					
	7-12	ネットワーク設計シナリオ1(論理設計)					
	13-18	ネットワーク設計シナリオ1(セキュリティ設計)					
	19-24	ネットワーク設計シナリオ1(高可用性設計)					
	25-30	ネットワーク設計シナリオ1(管理設計)				シナリオ1の課題を提出すること。レビューの準備をすること。	
	31	ネットワーク設計シナリオ1(レビュー、フィードバック)					
	32-34	ネットワーク設計シナリオ2(予備知識講義)					
	35-36	ネットワーク設計シナリオ2(設計)					
	37-38	ネットワーク設計シナリオ2(構築)					
	39-44	ネットワーク設計シナリオ2(運用監視)				シナリオ1の課題を提出すること。レビューの準備をすること。	
	45	ネットワーク設計シナリオ2(レビュー、フィードバック)					
	評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)レビューを数回実施する。企業レビューへのやむおえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題			◎		○		30%
レビュー			○	○	◎		30%
受講状況					◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。 企業レビューは原則参加すること(公欠などやむおえない事情は除く)。						

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高倉美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科2年、情報システム科アドバンス1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる	
	11	求職票受付面接練習① 入退室の所作					
	12	求職票受付面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	求職票受付面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	求職票受付面接練習振り返り					
	15	企業説明会・入社試験時のマナー					
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)求職票受付面接に合格する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年、情報システム専攻科2年、情報システム科2年、情報システム専攻科アドバンスコース1年、情報システム科アドバンスコース1年						
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる。	
	○			○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	プレゼンテーション技法(株式会社ウイネット 刊)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か					
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識					
	3	企画立案・情報収集法					
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点					
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート提出		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワーク概論						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	高倉美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年、情報システム専攻科2年、情報システム科2年、情報システム科アドバンスコース1年						
授業概要	TCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学ぶ。またシミュレーションソフトを使用して、データ転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる	
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる	
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる	
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	Get! CompTIA Network+ (翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	ネットワーク通信					
	3- 4	OSI参照モデル(1)					
	5- 6	OSI参照モデル(2) -ネットワーク層、データリンク層					
	7- 8	OSI参照モデル(3) -ネットワーク層、データリンク層				OSI参照モデルの各レイヤの特徴をまとめる	
	9- 10	IPアドレス(1)					
	11- 12	IPアドレス(2)					
	13- 14	IPアドレス(3)					
	15- 16	IPアドレス(4)				IPアドレスの計算練習を行う	
	17- 18	ルーティング(1)					
	19- 20	ルーティング(2)					
	21- 22	ルーティング(3)				ルーティングの仕組み・特徴や用語をまとめる	
	23- 24	スイッチング(1)					
	25- 26	スイッチング(2)				スイッチングの仕組み・特徴や用語をまとめる	
	27- 28	復習 - OSI参照モデル、IPアドレス					
	29- 30	復習 - ルーティング、スイッチング					
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)課題・レポートを3回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	小テスト	◎	◎				25%
	課題・レポート				○		25%
履修上の注意							

科目名	電子ソフトウェア技術						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	浜地啓		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	組込みシステムの技術要素、開発技術、管理技術について学ぶ。 ETEC(組込みソフトウェア技術者試験)クラス2の範囲を学ぶ。練習問題を解くことで知識を深める。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				ETEC(JASA組込みソフトウェア技術者試験)クラス2の範囲の用語を説明できる。	
		○				ETEC(JASA組込みソフトウェア技術者試験)クラス2の問題に正解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	トコトンやさしい 組込みシステムの本(日刊工業新聞社) 組込みソフトウェア技術者試験クラス2対策実践問題集(日経BP)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	マイコンの誕生から今日まで					
	5-8	マイコン回路とデジタル回路					
	9-12	組込みシステムについて					
	13-16	組込みシステムの設計手法					
	17-20	組込みシステムの設計実務 ハードウェア					
	21-24	組込みシステムの設計実務 ソフトウェア					
	25-28	組込みシステムの設計実務 テスト、デバッグ					
	29-32	安心して使える組込みシステム 信頼性					
	33-36	安心して使える組込みシステム 安全性対策					
	37-40	組込みシステムの製品化				ここまでの講義内容の復習をすること	
	41-44	練習問題(1) 技術要素1					
	45-48	練習問題(2) 技術要素2					
	49-52	練習問題(3) 技術要素3					
53-56	練習問題(4) 開発技術						
57-60	練習問題(5) 管理技術						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				60%
	小テスト		○				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	電子回路						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	古賀 章司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	電子部品の機能や回路の仕組みを理解する。回路を実際に作成して理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				組込みソフトウェア開発者に必要な電子回路の基本的な仕組みを説明できる	
		○				電圧、電流の意味が説明できる	
		○				抵抗、ダイオード、コンデンサ、トランジスタの役割が説明できる	
テキスト・教材 参考図書	キットで遊ぼう 電子回路シリーズ No.1 基本編 vol.1(アドウィン) キットで遊ぼう 電子回路シリーズ No.1 基本編 vol.2(アドウィン)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	キットの説明、パーツの確認、シール貼り、LED点灯・消灯					
	3-4	VR(可変抵抗器)、電気の3要素とオームの法則					
	5-6	電圧、電流、抵抗、並列回路					
	7-8	ダイオードを利用した回路1					
	9-10	ダイオードを利用した回路2					
	11-12	コンデンサ、単純CR回路					
	13-14	CR回路				ここまでの講義内容を復習すること	
	15-16	トランジスタ タイマ回路、電流増幅回路					
	17-18	トランジスタ LED調光回路					
	19-20	トランジスタ CdSセル、ダーリントン回路					
	21-22	トランジスタ DCモータ制御					
	23-24	トランジスタ マルチバイブレータ					
	25-26	トランジスタ ブロッキングオシレータ				ここまでの講義内容を復習すること	
27-28	各種FET						
29-30	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習課題を実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				60%
	課題提出		○				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	組込みプログラミング演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下文夫		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	組込みシステムの開発ではC言語のポインタの理解が必要である。ポインタの機能を理解し、コーディングができる力を付ける。プログラミング演習を行いながら実践的に学ぶ。また、C言語プログラミング能力認定試験2級の問題解答を通して、C言語のポインタ知識の定着を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				ポインタ記述を含んだコードの動きを理解できる	
		○				ポインタ記述を含んだプログラム記述を行える	
テキスト・教材 参考図書	新・明解C言語 入門編(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	ポインタとは、オブジェクトとアドレス					
	3-4	アドレス演算子、間接演算子					
	5-6	ポインタと関数					
	7-8	関数の引数としてのポインタ				ここまでの講義内容を復習すること	
	9-10	scanf関数とポインタ					
	11-12	ポインタの型、空ポインタ					
	13-14	ポインタと配列					
	15-16	間接演算子と添字演算子					
	17-18	配列の受渡し				ここまでの講義内容を復習すること	
	19-20	文字列とポインタ					
	21-22	ポインタによる文字列の操作					
	23-24	文字列を扱うライブラリ関数				ここまでの講義内容を復習すること	
	25-26	C言語プログラミング検定2級問題(1)					
	27-28	C言語プログラミング検定2級問題(2)					
29-30	C言語プログラミング検定2級問題(3)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				60%
	小テスト		○				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	システム開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	高橋政博		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻 2年、情報システム専攻科 電子システムエンジニア専攻 2年、情報システム科 電子システム専攻 2年						
授業概要	マイコンボードを使ったC言語プログラムの開発を行う。マイコンボードを扱うにあたりマイコン仕様書の読み方を学習し、マイコンの仕組みを理解する。開発演習テーマの開発をプログラムの設計、製造、テストのプロセスで行う。作業状況はレビューを行いながら進めることでプログラムの品質向上を図る。						
授業形式	講義: △	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				プログラムの設計、製造、テストの工程の違いを説明できる	
		○				C言語によるマイコンボード向けプログラムを新規開発できる	
		○				回路図やハードウェアマニュアルを読んで内容を理解できる	
テキスト・教材 参考図書	テキスト: H8/Tinyマイコン完璧マニュアル(CQ出版社) 使用機材: H8/3694F マイコンボード						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	マイコンボードの仕組み					
	4-6	モニタプログラムとデバッグ方法					
	7-9	プログラムのROM化手法					
	10-12	割込み処理の基礎知識					
	13-15	マイコンのハードウェアマニュアルと回路図の読み方					
	16-18	LED、LCD、I/Oポート制御				プログラムの作成手順を復習すること	
	19-21	割り込み処理					
	22-24	開発演習テーマの仕様理解					
	25-27	プログラム設計					
	28-30	プログラム設計レビュー					
	31-33	プログラム実装1					
	34-36	プログラム実装2					
	37-39	プログラムコードレビュー					
40-42	プログラムテスト						
43-45	開発演習振り返り				開発演習振り返りレポートを作成すること		
評価方法	(1)開発成果物を提出する。(2)開発演習振り返りレポートを提出する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物		◎				40%
	レポート		○				30%
	受講状況				○		30%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスモデル概論						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	藤澤昌聡		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス 2年						
授業概要	ビジネスモデルについて代表的な思考法を学ぶ ビジネスモデルを適切に分析する方法を学ぶ 考案したビジネスモデルの企画提案書を作成する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				代表的なビジネスモデルの思考法が説明できるようになる	
		○				ビジネスモデルの基本的な分析ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	・翔泳社 これから伸びる人の必修科目「ビジネスモデル」のきほん						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~2	ビジネスモデルはいつ、何に使えるのか?					
	3~4	「儲ける仕組み」を理解する					
	5~6	ビジネスモデルの構成要素					
	7~8	ビジネスモデルと事業計画の違い					
	9~10	ビジネスモデル・キャンパス・9セル					
	11~12	顧客価値提案の3大要素					
	13~14	顧客の状況をくみ取るツール(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	15~16	利益設計の3大要素					
	17~18	儲けないから儲かる(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	19~20	プロセス構築の3大要素					
	21~22	強みを認識する(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	23~24	センスをつけてみる(既存のビジネスモデル分析)				作業ペアを編成しておくこと	
	25~26	ビジネスモデルを作ってみる					
27~28	企画提案書の作成(提案書に必要な CTPT、問題解決)						
29~30	企画提案書の発表						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	AI利用技術						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス 2年						
授業概要	業界の技術動向を知り、自らその技術を習得する。 実際に体験しながら機械学習を業務や作業にどう組み込んでいくかを学習する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				目的に応じ適切な機械学習種類やニューラルネットワークの構成が選択できる	
		○				機械学習のアプリケーションへの活用方法の基礎が説明できる	
テキスト・教材 参考図書	・ソシム すぐに使える! 業務で実践できる! Pythonによる AI・機械学習・深層学習アプリの作り方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~3	環境構築					
	4~6	機械学習で利用するデータの作り方					
	7~9	一番簡単な機械学習を実践する					
	10~12	顔検出 - 顔に自動でモザイクをかけよう					
	13~15	輪郭抽出 - はがきの郵便番号認識に挑戦しよう					
	16~18	自然言語処理・単語の意味をベクトル化してみよう					
	19~21	自然言語処理・自動作文に挑戦しよう					
	22~24	自然言語処理・SNS や掲示板へのスパム投稿を判定しよう					
	25~27	ディープラーニング・写真に写った物体を認識しよう					
	28~30	ディープラーニング・画像データからカタカナの判定					
	31~33	業務システムへ機械学習を導入しよう					
	34~36	ニュース記事を自動でジャンル分けしよう					
	37~39	Web で使える文章ジャンル判定アプリを作ろう					
	40~42	機械学習にデータベース(RDBMS) を利用しよう					
43~45	料理の写真からカロリーを調べるツールを作ろう						
評価方法	(1)課題・レポートを適宜実施する。(2)指示されたテーマに関する課題を提出すること。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○	◎				60%
	テーマ課題	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	技術文書						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的の裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる ・ビジネスを進める上で、論理的に物事を考え、実行する力が身に付く 						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書になる	
		○				論理的に物事を考えることができる	
		○				伝わるビジネスメールを書くことができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	テクニカルライティングとは(授業導入)				授業内容に係るレポート作成および提出	
	2	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識					
	3	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識				授業内容に係るレポート作成および提出	
	4	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					
	5	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	6	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック					
	7	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	8	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					
	9	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～				授業内容に係るレポート作成および提出	
	10	第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取り扱説明書					
	11	第6章 実践編 提案書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	12	第6章 実践編 提案書					
	13	第7章 実践編 障害報告書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	14	第8章 実践編 社外メール文				授業内容に係るレポート作成および提出	
評価方法							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	プロジェクト開発演習B						
科目名(英)							
単位数	12単位	時間数	180時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と連携し、顧客の要望をくみ取り、理解し、折衝しながらプロジェクトを進行させることを学ぶ。 ・チームによるアプリケーション開発作業を行い、問題点を適切に対処した「プロジェクト管理」を経験する。 ・詳細設計書に基づく開発を経験したのち、設計からの開発を実践する。 ・開発作業の成果物について「ドキュメント・ソース管理」を行う。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
	○					開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
	○					要件に応じた成果物を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・日経BP社 プロジェクト実行ガイド大全 ・シーアンドアール研究所 わかばちゃんと学ぶ Git使い方入門 ・日本実業出版社 「プロジェクトマネジメント」実践講座 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～6	試用理解・調査計画書作成・基本調査			以降、次回レビューまでに進捗レビュー準備をしておくこと		
	7～12	基本調査・調査報告書・設計概要書作成					
	13～18	基本設計書作成					
	19～24	基本設計書レビュー・指摘修正					
	25～30	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	31～36	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	37～42	詳細設計書作成・テスト計画書作成					
	43～48	詳細設計書作成・テスト計画書作成レビュー、開発					
	49～54	開発・テスト					
	55～60	開発・テスト					
	61～66	運用テスト					
	67～72	運用テスト					
	73～78	運用テスト					
79～84	運用結果反映						
85～90	発表準備						
評価方法	(1)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(2)制作過程の進捗状況を評価する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				40%
	成果物提出状況		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添正和		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス 2年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:SPIテキスト(非言語分野)前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う (2)言語分野:「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				非言語分野の計算が基本通りに答えを求めることができる。	
		○				言語分野の練習問題をとくことができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(5月末に最新版を購入・配布)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	②CAB・GAB対策(その1)					
	2	②CAB・GAB対策(その2)、③漢字対策(その1)					
	3	②CAB・GAB対策(その3)、③漢字対策(その2)					
	4	②CAB・GAB対策(その4)、③漢字対策(その3)			小テスト範囲の復習をしておくこと		
	5	小テスト(CAB・GAB一連テスト)、③漢字対策(その4)					
	6	②CAB・GAB対策(その5)、③漢字対策(その5)			小テストで間違えた問題の復習をしておくこと		
	7	①SPI数学分野の対策(その1)、③漢字対策(その6)					
	8	①SPI数学分野の対策(その2)、③漢字対策(その7)					
	9	①SPI数学分野の対策(その3)、③漢字対策(その8)					
	10	①SPI数学分野の対策(その4)、③漢字対策(その9)					
	11	①SPI数学分野の対策(その5)、③漢字対策(その10)					
	12	①SPI数学分野の対策(その6)、③漢字対策(その11)					
	13	①SPI数学分野の対策(その7)及び SPI数学分野のミニテスト					
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ ①SPI数学分野のミニテスト			これまで学んだ範囲を復習しておくこと		
15	①SPI数学分野のミニテスト及び SPI国語分野の復習、定期試験対策			定期試験対策で整理した内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テスト(小テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	○	◎				40%
	授業態度など				◎		20%
履修上の注意							

科目名	就職実務 I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科アドバンス 2年						
授業概要	前期に行った業界研究、履歴書(自己分析)を元に、業界・職種の志望動機を含めた履歴書を完成させる。また、面接時のマナーや基本的な立ち振る舞いを学習し、面接試験対策を行う。さらにエントリー企業の選択と受験時の心得を指導する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○				求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・麻生塾オリジナル 就職活動ガイドブック ・一ツ橋書店 簡単! 面接練習帳 -ようこそ面接室へ ・ソシム 世界一わかりやすい IT業界のしくみとながれ 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~2	前期の振り返り(履歴書作成)					
	3~4	履歴書作成、面接試験の概要、基本的な立ち振る舞い					
	5~6	面接練習1(挨拶、立ち振る舞い)					
	7~8	面接練習2(業界・職種の志望理由)					
	9~10	面接練習3(自己PR)					
	11~12	面接練習4(学業で頑張ったこと)					
	13~14	職種理解および履歴書作成(志望動機)					
	15~16	面接練習5(業界・職種志望動機)					
	17~18	面接練習6(業界・職種志望動機)					
	19~20	求職票受付面接試験					
	21~22	面接振り返り、企業アプローチの流れとマナー					
	23~24	企業研究1					
	25~26	企業研究2					
27~28	企業研究3						
29~30	企業研究4						
評価方法	(1)適宜レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	レポート課題	○	◎				50%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が20回(全30回)に満たない場合は単位認定できない。再試験は実施しない。						

科目名	クラウド						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科1年アドバンスコース						
授業概要	クラウドコンピューティングの基礎知識を講義と演習を通して学習する。クラウドの概要、仕組み、要素技術、利点、リスク、サービスについて理解する。クラウドの主要サービスの一つであるAWSを演習で用いる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				クラウドコンピューティングに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				AWSのEC2に関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				AWSのEC2に関する基本設定、動作確認ができる。	
テキスト・教材 参考図書	Cloud Essentials テキスト&問題集 CLO-001対応版(TAC)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 クラウドの特徴(1 クラウドとは、2 クラウドの基本特性、3 クラウドサービスモデル)					
	2	第1章 クラウドの特徴(4 クラウドの配置モデル、5 クラウドサービスの環境)					
	3	第2章 クラウドの仕組み(1 分散処理)					
	4	第2章 クラウドの仕組み(2 仮想化、3 その他の技術)					
	5	第2章 クラウドの仕組み(4 データ連携)					
	6	第2章 クラウドの仕組み(5 クラウド技術の標準化)					
	7	第3章 クラウドの導入と利用(1 クラウドとアウトソーシング、2 クラウドビジネスの特徴、3 クラウドとITサービスマネジメン)					
	8	第3章 クラウドの導入と利用(4 クラウドアプリケーションの開発の特徴、5 クラウドの導入検討、6 クラウド導入コスト、7 クラウド導入の成功)					
	9	第4章 クラウドのリスクと影響(1 クラウドの技術リスク、2 クラウドの利用リスク、3 クラウドとコンプライアンス)					
	10	第4章 クラウドのリスクと影響(4 クラウドベンダーとの契約書、5 クラウドセキュリティ)					
	11	第5章 クラウドサービスの種類(1 代表的な商業サービス、2 ホスティングサービス)					
	12	第5章 クラウドサービスの種類(3 クラウドストレージ、4 日本のクラウド)					
	13	AWS概要(EC2、ELB、CloudWatch、Auto Scaling)					
	14	EC2演習			演習課題のエビデンスを提出すること。		
15	AutoScaling演習			演習課題のエビデンスを提出すること。			
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋対策B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	川野啓祐・志水徹・手嶋隆之・高橋政博・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	川野啓祐・志水徹・手嶋隆之・高橋政博・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添正和		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科1年アドバンスコース						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及びSPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
15	SPI数学分野の小テスト及びSPI国語分野の復習、定期試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							